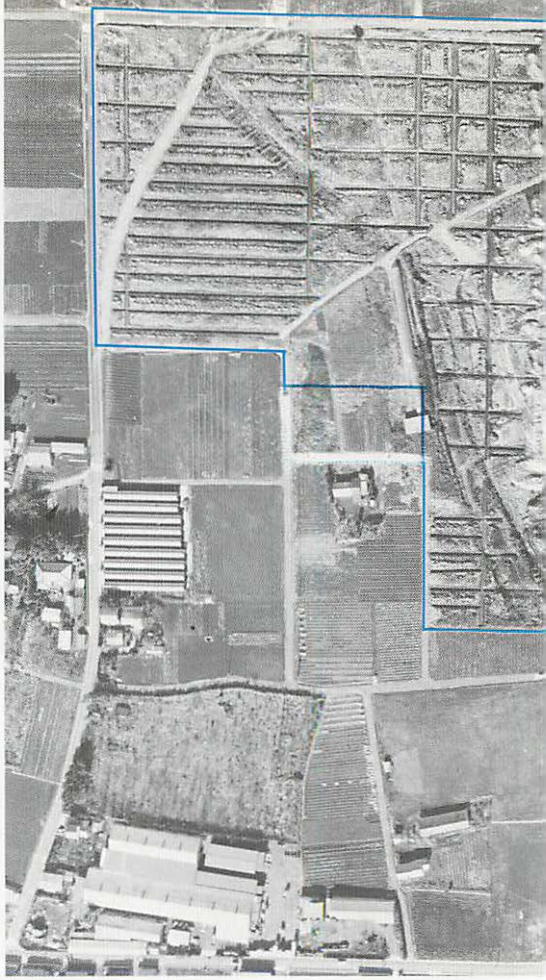
柳久保遺跡群

1986

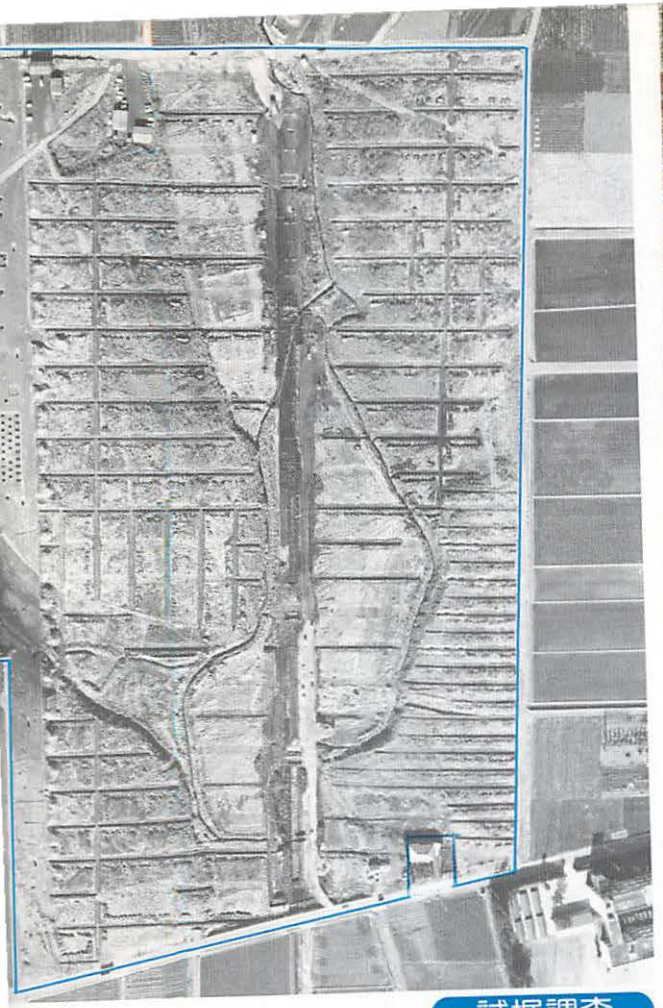
前橋市教育委員会



分布調査

遺跡を調べる

ここは最初たくさんの畑や栗林でしたが、住宅団地を造成する計画が決まり発掘調査をすることになりました。昭和58年１月予定地の約20万㎡を対象に分布調査を行ない、およそ11万㎡が遺跡地ではないかと考えられました。昭和59年度には、もう少し詳しく遺跡地を調べるために試掘調査を行ない、写真の様にすじ掘りをしました。その結果、旧石器時代から奈良・平安時代に至る遺跡のちらばり方や大まかな遺構の数が分かりました。

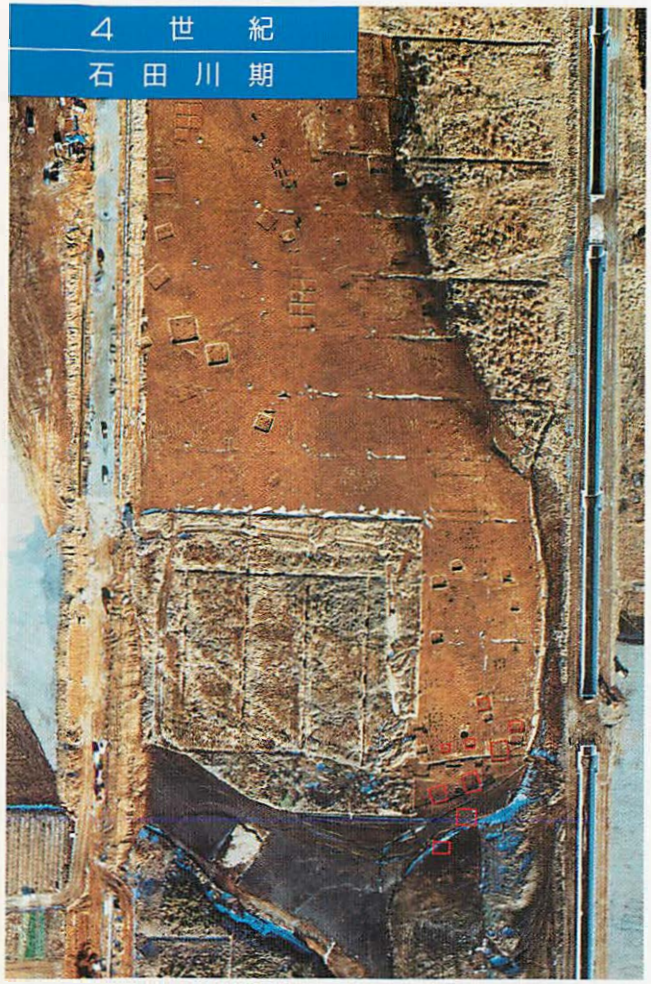


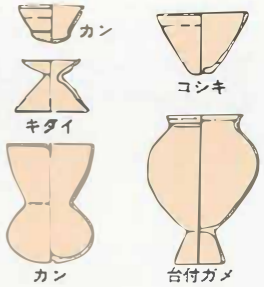
試掘調査

発掘調査

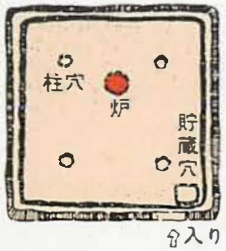
それをもとにして本格的な発掘調査が始まり、住居跡などの遺構が次々に発見され多量の土器も出土しました。遺物の中には群馬県では産出されない黒曜石や、平安時代の祭りに使った墨画土器等があります。

むらの移り変り

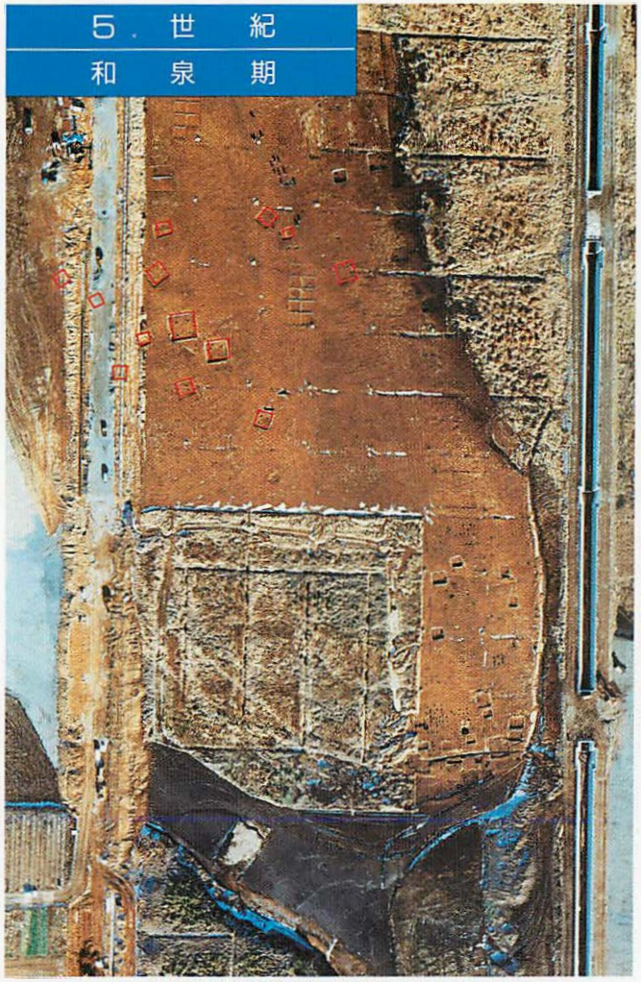


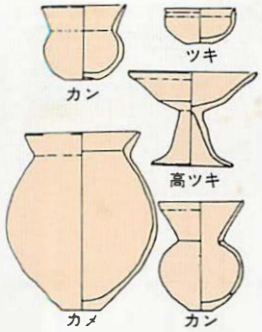


この時期の人々が使用していた土器は、土師器（はじき）と呼ばれ、赤褐色・茶褐色をしており、縄文・弥生土器の作り方を受けついでいます。にたき用のカメや台付のカメに、くし目の文様がつけられ、口の縁をS字形としているのが特ちょうです。



縄文時代以後、人々の活動がとだえていた柳久保の台地に「むら」がつくられます。「むら」は台地の最南端にあり、陽当たりが良く強い北風もさけられます。水田耕作をしているらしく、谷地に開かれた水田にも近く、水も得やすい住むのに快適な場所だったようです。

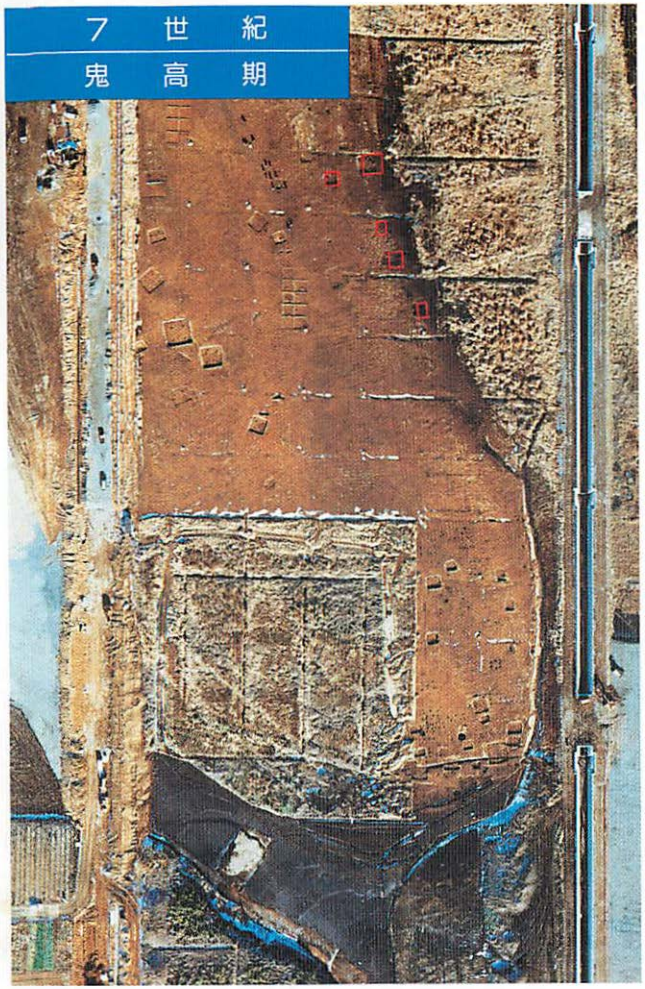


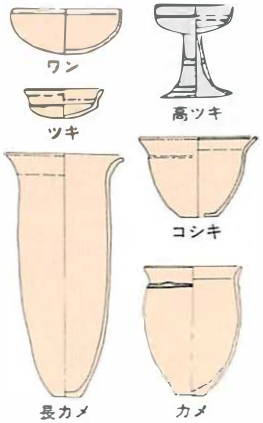


この時期の人々も土師器を使用しています。4世紀の土器に見られた、くし目文様やS字の口縁小型器台が見られなくなります。ツボやカメの口縁は、深くくの字形に切れ込んでおり、この時期から弥生土器の特ちょうは、見られなくなります。

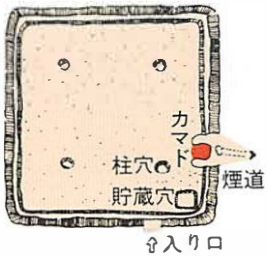
台地の中央部に13棟の規模の「むら」がつくられます。鉄器が多く利用されており、先進的な「むら」だったようです。特に「むら」の中央部にある1辺約9mの大きな家からは、祭礼に使われる勾玉（まがたま）が見つかっており、おそらく「むら」の長の家ではないかと思われます。

7世紀 鬼高期



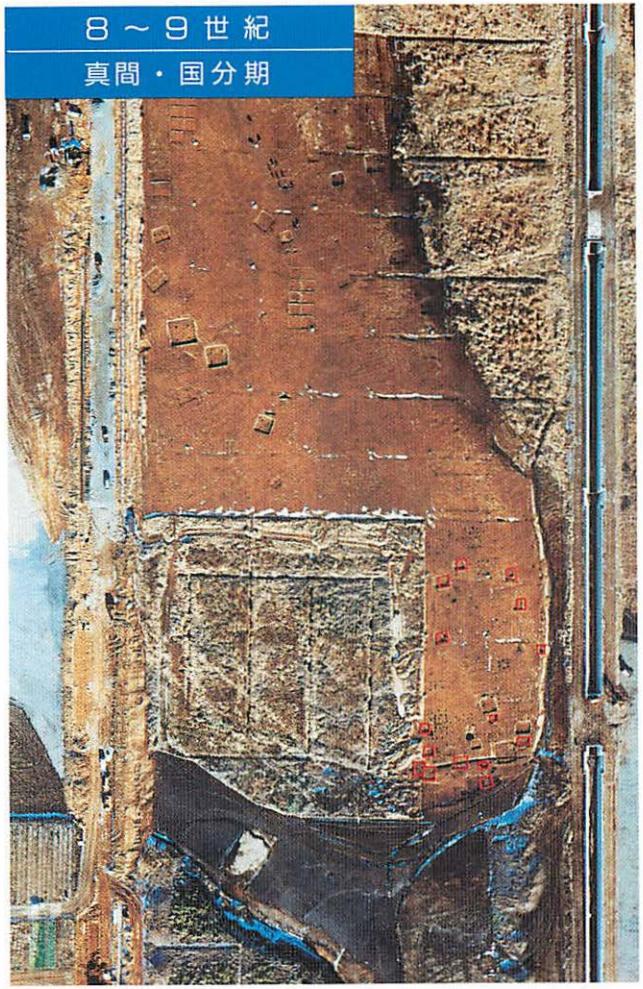


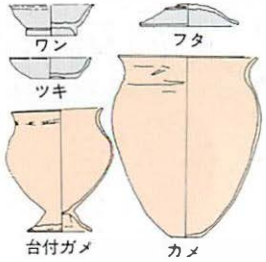
カマドが使われるようになると、それに合うような長いカメが使われるようになります。朝鮮から、土師器よりも丈夫な須恵器が伝えられました。これは、硬い、灰色をした焼き物です。



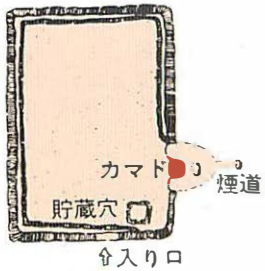
柳久保の台地の東側の急な斜面に「むら」が造られます。家の跡が5軒程発見されました。中には、地面を1.5m近くも深く掘った家もあります。また、どの家もカマドを持っていて、食べ物の煮たきには、熱を通しやすい薄手の長カメを利用していたのです。

8～9世紀 真間・国分期





土師器のカメは、煮たきが早くできるように薄くなります。しばらく、使われていなかった台付カメが、使われるようになります。これらのカメの口の部分は、コの字形をしています。須恵器の生産が、さかんになり、次第に、人々の生活の中で使われるようになります。



石田川期と同じように台地の南側の斜面に「むら」が造られます。家の跡が16軒、建物の柱の跡が300個程発見されました。この柱の跡は高床の建物や直接地面に柱を立てた家の跡と見られます。これらの建物は10棟以上になります。近くの水田で稲作をして暮していました。

むらのくらし

柳久保遺跡群・柳久保遺跡には、今から1500年ほど前の古墳時代中期の遺跡があります。赤城山を背にした山ろくの広大な裾野の舌状台地上・標高 112mの村・柳久保には、約7戸の農家が存在し、平和なくらしをしていました。

東には関東平野、西に榛名山、浅間山、その奥に上越国境、そして南の正面には妙義山や南アルプスが一望されます。近くには、荒砥川や神沢川から分水した有名無名の小河川が赤城山を水源とした水をたたえています。中央部の立派な家は、ひときわ目立つ、地面を深く掘り下げた住居で、約80㎡の広いスペースは、村の指導者にふさわしい構えといえます。

柳久保遺跡群の発掘調査はこれからも継続して行なわれます。今までの調査で発見された中で最も古い遺物は、旧石器時代の石器です。今から２万年前に作られたものです。続く縄文時代に入るとたくさんの土器や石器が見つかっています。しかし、この時代の家は見つかっていませんから、狩りにきた時のキャンプの跡かもしれません。日本で米づくりが始められた弥生時代の土器や家、生活用具は今の所、柳久保では見つかっていません。おそらく、田んぼを作る技術が低かったため、住まわれなかったのでしょう。古墳時代から平安時代の間に、多くの人々が暮らし「むら」がつくられます。現在、住宅団地の工事は着々と進んでおり、そういった過去の歴史を偲ぶことは、むずかしくなって来ています。しかし、まだまだ発掘調査は続きますので、是非とも遺跡へいらして、住居のあとや土器をご覧になって下さい。また、今後の調査経過も小冊子で紹介したいと思います。

時代区分		年代	火山灰編年	主な生産活動	主な遺物		前橋の遺跡	主なできごと
旧石器時代			姶良カルデラ噴火（AT層） 浅間山噴火（Y.P層）	狩猟・漁撈・植物採集	石器・骨角器		柳久保遺跡 北三木堂遺跡 下鶴谷遺跡	狩猟・採集の生活。寒冷な気候。
縄文時代	草創期	BC.10000				縄文土器	端気遺跡群II 下鶴谷遺跡	土器の使用がはじまる。
	早期	BC.4000						温暖な気候（海進）。村ができはじめる。
	前期	BC.3000					芳賀西部団地遺跡	
	中期		浅間山噴火（D軽石）	原始農耕？			芳賀北部団地遺跡	大規模な村がつくられる。
	後期						芳賀東部団地遺跡 二之壇遺跡 小神明遺跡群1 請無遺跡	土器、土偶などが盛んにつくられる。
	晩期	BC.200					西新井遺跡	土器から米づくりがつたわる。
弥生時代	前期			水稲農業		弥生土器	九料遺跡	邪馬台国女王卑弥呼。各地域で古墳がつくられる。
	中期							
	後期	300	浅間山噴火（C軽石）					
古墳時代	前期	400					前橋天神山古墳 鶴谷遺跡 柳久保遺跡 前二子古墳	
	中期	500	榛名二ッ岳噴火（FA火山灰） 榛名二ッ岳噴火（FP軽石）			土師器 須恵器		
	後期	700					山王廃寺 宝塔山古墳 芳賀東部団地遺跡	古代統一国家が誕生。上野国府、国分寺がつくられる。
奈良時代		800			金属器			平安京に遷都。
平安時代		1200	浅間山噴火（B軽石）				中鶴谷遺跡 柳久保水田址 女堀	鎌倉幕府の成立。
中世		1600	浅間山噴火（A軽石）			陶磁器		江戸幕府の成立
近世								明治維新
近・現代								太平洋戦争

赤は柳久保遺跡群

柳久保遺跡群

柳久保遺跡群

前橋市教育委員会
前橋市大手町　0272-24-1111

1986.11.06